

科目ナンバリング									
授業科目名 <英訳>		言語科学 I Introduction to Linguistic Science I			担当者所属 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 河崎 靖		
群	人文・社会科学科目群		分野(分類)	芸術・文学・言語(基礎)		使用言語	日本語		
旧群	A群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	講義(対面授業科目)		
開講年度・ 開講期	2024・前期		曜時限	火2		配当学年	全回生	対象学生	全学向
【授業の概要・目的】									
ことばの普遍性・体系性を明らかにすることを目標とする。言語学の諸分野(音論、形態論、統語論等の諸領域)を対象に、言語体系の普遍的な法則性を探るべく、言語学の考究による種々の成果を踏まえ、言語学の方法論上の問題についても考察する。言語学のさまざまなアプローチにより、ことばの諸相を考究することによって、多様性の背後に見え隠れする言語の普遍的特質を追求する。以上のような立場から、言語体系の法則性・言語変化のメカニズムを探り、そのあり方を解明することを通して、言語の本質に迫る。									
【到達目標】									
言語学の諸分野(音論・形態論・統語論・意味論などの領域)を対象に、言語体系の全体像が把握できるよう考究を進める。世界の諸言語を視野に収め、ことばの普遍性・体系性が明らかになることを目標とする。ことばの諸相を考究することによって、多様性の背後に見え隠れする言語の普遍的特質を学ぶ。									
【授業計画と内容】									
印欧語の世界を視野に収めながら、ことばの普遍性・体系性を明らかにすることを目標とする。一般言語学の諸分野(音論、形態論、統語論等の諸領域)を対象に、言語体系の普遍的な法則性を探るべく、通時的・共時的考究を進める(第1回～第5回)。比較言語学的方法と併せて、言語の理論的考究による種々の成果を踏まえ、言語学の方法論上の問題についても考察する(第6回～第10回)。言語類型論なアプローチ等により、ことばの諸相を考究することによって、多様性の背後に見え隠れする言語の普遍的特質を追求する(第11回～第14回)。以上のような立場から、言語体系の法則性・言語変化のメカニズムを探り、そのあり方を解明することを通して、言語の本質に迫る。									
<ol style="list-style-type: none"> 1. 言語学とは? 2. 言語研究の歴史 3. 通時態と共時態 4. 音韻論 5. 形態論 6. 統語論 7. 意味論 8. 語用論 9. まとめ(総論) 									
言語体系の法則性・言語変化のメカニズムを中心に考究し、通時的・共時的に言語の諸現象の分析を試みていく。言語の普遍性および多様性を理解すべく、言語体系の法則性・言語変化のメカニズムを考究する。また、こうした方法論に関する学識を理論面・実証面の双方の観点から体系的に学習する。									
----- 言語科学 I (2)へ続く -----									

言語科学 I (2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

成績評価は、基本的に、平常点（出席状況および授業への取り組み）・小テストに基づく。成績評価基準の詳細については、授業中に指示する。

【教科書】

授業中に指示する
特になし。

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する
教材はこちらで用意する予定である。

【授業外学修（予習・復習）等】

小テストを行うので準備を怠らないこと。

【その他（オフィスアワー等）】

参加者数は教室定員を上限とする。